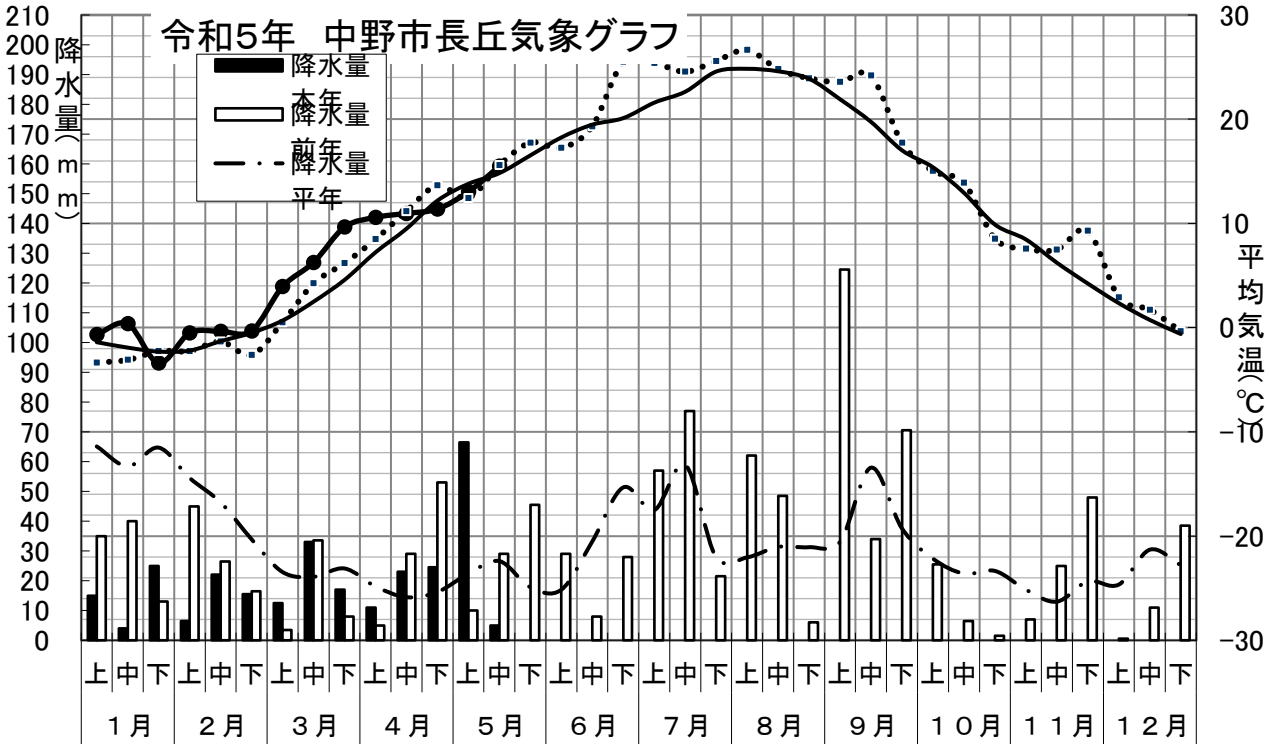
農 作 物 生 育 概 況

令和５年５月２５日現在



＜作　物＞

水　稲

５月は気温の変動が大きく、一部育苗センターでトリコデルマによる立ち枯れ、もみ枯細菌病の発生が見られた。

連休明けの５月８日頃から一部で田植えが始まった。現在の田植え進捗状況は２割程度。最盛期は５月 27 日頃の見通しで、昨年よりも若干遅い。

代かき水の不足が懸念されていたが、５月に入って降水量が多く、計画通りに作業が進んでいる模様。

小　麦

４月中旬までは気温が高めに経過し、生育の前進が見られたが、下旬以降は停滞した。飯山市の「ゆめちから」は、例年よりも 10 日以上早い５月 16 日頃が出穂期とみられる。

＜果　樹＞

全　般

４月の低温で凍霜害の被害が発生し、特に平坦地などの冷気がたまりやすい地域で大きな被害が発生した。

生育は当初、早いもので２週間程度進んでいたが、現在は平年より数日早い程度となっている。

りんご

着果状況は園地や品種によって異なるが、凍霜害被害が大きかった地域で着果が極端に少ない場合は、えき芽果を利用するよう指導している。また、「ふじ」では凍霜害の被害が小さかった園地でも受粉環境の影響による着果不良も見られる。園地によっては、隔年結果も見られている。

果実の肥大が進んでおり、５月半ばからはサビが確認できるようになってきた。

病害虫では、特に腐らん病が多く見られており、対策の徹底が必要。

ぶどう

凍霜害の被害は小さく、実害は出ていない。

気温が低かったことで生育が停滞したため、花穂の状況がようやくわかるようになってきており、早いところでは誘引作業が始まっている。

核果類

着果状況は、ももで一部不良、ネクタリン、プラム、おうとうは全域で不良となっている。特に、ネクタリン、プラムについては大きく減収することが見込まれる。

モモせん孔細菌病の春型枝病斑が多かったことと、定期的に降雨があったことで葉の病斑が目立っており、果実への感染も懸念される。

な　し

「南水」の着果は全域で不良となっている。「ラ・フランス」等の西洋なしの着果は概ね確保されているが、老木化による弱樹勢樹が散見される。

＜野　菜＞

アスパラガス

中野市の半促成作型では５月連休明けから立茎が始まった。飯山市のハウスでも、５月の連休から立茎開始し、現在立茎ほぼ完了。

露地では中野市で４月中旬から萌芽が始まり、ほぼ平年並みだったが、４月 10、18 日の降霜で、一度全刈りを行った、また霜等で曲がりが多くみられる。飯山市では４月 20 日頃から萌芽始まり、北部では５月連休から出荷開始し、今月いっぱい収穫予定。

きゅうり

露地は、５月連休明けから定植が始まった。寒暖差が大きいが活着・生育ともに良好。

＜花　き＞

シャクヤク

岳南は露地作型の出荷最盛期。岳北に関しても出荷が始まっている。４月の凍霜害の影響により、花首の曲がり等の品質低下がみられる。高標高地の露地シャクヤクは５月末頃から収穫が始まる予想。病害の発生は今のところ目立っていない。

トルコギキョウ

例年より１週間から 10 日ほど生育は進んでおり、ハウス加温作型の早いもので出荷が始まっている。その他の作型では出蕾期で、枝整理・花蕾整理が順次行われている。

病害等の発生は、昨年度土壌消毒（クロピク）を実施した場では立枯病等の発生は少ないが、土壌還元消毒のみのほ場では、立ち枯れ症状や排水不良による根痛み、根腐れによる生育不良が見られている。